

論文審査の要旨 (課程博士)

生物システム応用科学府長 殿

審査委員 主査 草刈 基 ⑩

副査 川端 良子 ⑩

副査 千年 篤 ⑩

副査 豊田 剛己 ⑩

副査 山田 祐彰 ⑩

学位申請者	<u>食料エネルギーシステム科学</u> 専攻 平成 <u>27</u> 年度入学 学籍番号 <u>15703108</u> 氏名 宮寄 絢子
申請学位	博士 (農学)
論文題目	Empirical Analysis of Intra-Household Resource Allocation for Women in Rural Society of Northern Ghana
<p>論文審査要旨 (600～700 字程度)</p> <p>本論文は、ガーナ共和国北部の農村社会における女性の世帯内での資源配分および地位の実態解明を試みたものである。ジェンダーと開発の分野における本論文の独自性の一つは、この分野の実証分析で広く用いられてきた世帯調査の限界を認識し、女性個人に対する詳細な調査を実施したことにある。二つは、ガーナ北部農村地域において広く見られる複婚（一夫多妻）や、一定数以上の子供を出産した女性に高い社会的地位（Cooking wife）が与えられる社会慣習に着目したことである。具体的には、ガーナ北部の3村で収集した249人の女性のデータから、単婚・複婚間、複婚世帯内の婚姻順（Senior wife と Junior wife）、上述のCooking wife と非Cooking wife の間で、農地の配分、農外労働への就業、現金所得の処分権、夫に対する従属性など女性の地位に関連していると考えられる要素が比較されている。単婚女性、Senior wife、Cooking wife は農地の配分において優位にある一方で、Junior wife は単婚女性やSenior wife と比べ、現金所得の処分権をもっていた。女性の農外就業機会はラッカセイ等の収穫作業に限られており、収穫作業への参加は、主に出生した子供の年齢や性別に影響を受けていた。概して夫に対する従属性は高く、婚姻形態や社会的地位による差は認められなかった。これらの結果は、複婚やCooking wife の慣習など女性間の関係性が複雑に存在する社会においては、単婚世帯を念頭に想定されていた、農地の配分、農外労働への就業、現金所得の処分権などの要素と女性の地位との直線的な正の関係性が、必ずしも成立しないことを示唆している。</p> <p>以上のように、本論文は、多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、</p>	

本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士(農学)の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。

【審査経過】

(通常の審議の場合)

令和元年12月16日 令和2年3月博士後期課程修了に係る学位申請

令和2年 1月 8日 審査委員の選出・指名・付議、論文審査委員の付託 (運営委員会)

令和2年 1月30日 学位論文発表会

令和2年 2月21日 専攻会議で論文合格及び最終試験合格を承認

令和2年 3月 4日 学位授与認定・修了認定 (教授会)